

「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015」に基いた  
介護老人保健施設における薬剤削減の取り組み」

白石貴裕 1) 福永雅史 1) 下川希世 1) 山下力 1) 筑紫聡 1) 下川隆志 1)  
野田千里 1) 山見尚子 1) 岡田幸二 1) 三善優 1) 緒方陽 2)

1) 株式会社 ユネット 清風薬局

2) 社会福祉法人 ペートル会 介護老人保健施設 サンライフみのり

【目的】 2016年診療報酬改定で、多剤投薬の患者の減薬を伴う指導の評価が新設された。

これは2015年に日本老年医学界が「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015」を公表した動きに呼応するものだ。多剤併用は高齢者でより影響が大きく、薬物有害事象が発生しやすくなる。また、それに伴う医療費の増大も深刻で、早急な改善が必要である。介護老人保健施設での薬剤料は通常、包括になっており、剤数を増やさないような報酬体系になっている。しかし、入所者は診療情報提供書に基いた現在服用中の薬剤を継続して処方される傾向が強い。2015年介護報酬改定で介護老人保健施設は基本報酬が大幅に引き下げられた。これをきっかけに入所者の薬剤削減に取り組んでみたので報告する。この報告が他の医療機関や施設の薬剤削減の取り組みにつながれば幸いである。

【方法】 1.サンライフみのりは熊本県球磨郡相良村川辺 1778 番地にある定員 60 名の介護老人保健施設である

2.薬剤師は毎週水曜日の午後、全入所者を2つのグループに別けた処方せんの調剤監査、配薬を中心とした業務を当該施設で行っている

3.処方原則、14日間処方、処方せん一枚に最長28週間の記載が可能である

4.2016年2月15日、22日付け全入所者処方せんの処方情報（調査日）と個々の患者の当該処方せんに記載がある最も古い処方情報（入所日）を抽出、以下の項目を比較、検討した

- ・入所日の年齢、性別、処方せん1枚当たりの薬剤数、薬剤料
- ・調査日の入所期間、処方せん1枚当たりの薬剤数、薬剤料
- ・削減した薬剤の種類

【結果】・調査人数:44名、性別:男:女=1:3、平均年齢:83.9歳、平均入所期間:100.6日、削減薬剤料合計:22,310円（薬価）、処方せん一枚当たりの削減薬剤料:587円、削減した薬剤料上位5種:メモリー錠20mg、ランソプラゾールOD15mg「サワイ」、オルメテック錠10mg、ジャヌビア錠50mg、ドネペジル塩酸塩錠5mg「FFP」

【考察】在宅と違い入所では食事が管理されているので食塩摂取量が相対的に少なく、カロリーも制限されているので、降圧剤や糖尿病薬を減らせる場合が多いことが分かった、また、PPI、H2ブロッカーが漫然投与されているケースが散見されるが、加齢で胃酸の分泌が減少していることもあり再評価する必要がある

【キーワード】「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015」「多剤投薬」「薬剤削減」